

留学生と日本人学生の交流活動

TEEA発足から一年

留学生センター助教授 加賀美常美代

留学生センターでは、昨年、九月に国際交流ポランティア (Transcultural Exchange Association, 略してTEEA) グループを立ち上げ、新入留学生のサポートや留学生と日本人学生の交流活動を支援してきました。この一年を振り返ると、十一月の德音祭の参加に始まり、一泊の留学生センター主催の国際教育交流シンポジウムへの参加、東京下町ツアー (十一月)、年度末の報告会 (二月)、お花見 (四月)、鎌倉ツアー (五月)、帰国留学生の送別会 (七月)、鬼怒川温泉旅行 (八月) と自発的に企画してきました。これ以外に、「ビデオ上映会&討論会」や「TEEA新聞」の発行など交流を越え、自分たちの意見を発信する活動へと発展してきています。日常的には共通講義棟三号館一〇二室において、ランチミーティングを継続しています。こうした交流活動は、留学生と日本人学生の双方にとつて多様な体験、友人形成の機会を提供すると共に、人と人とのつながりを機軸とする地に着いた国際交流活動の限らない可能性を秘めています。以下に、TEEAメンバーの留学生と日本人学生の声を紹介しましょう。



国際教育交流シンポジウムの様子

ヘアータコバルチク (ポランド 日本語日本文化研修生) TEEAのメンバーになることができて本当に良かったと思う。初めて来日した私は不安を多く抱いていたが大學生活でどんな問題が起きてきてもいつもTEEAのメンバーの手伝いに頼ることができた。更にTEEAのメンバーとの出会いのおかげで他の日本人との接触は大分楽になてきた。日本語で話すのに自信がない私はTEEAのメンバーと会う時、どんなに変な日本語で話しても、相手がそれを理解しようとするのを見て、だんだん日本語で話す勇気がついてきたからである。その勇気は外国語を勉強する時に大切な役割を果たしている。またTEEAはただの友達同士の出会いだけでなく、積極的に様々なイベントを作るグループである。いろいろな面白い活動があり、誰でも好きなものに参加することができる。あるいは好きなように自分を表現することができる。最後に、TEEAの皆に感謝の気持ちを伝えたい。そしてTEEAで出会った皆との一年間に限らずこれからも友達でいて欲しいと思う。

陳 嫻如 (台湾 交換留学生)

TEEAのおかげで、初めて日本人の友達ができ、友達ができなことは留学生の悩みの一つであり、私もそのような悩みをもつ一人であった。しかし、TEEAの皆に親切に接してもらい、単なる話し相手から友達になることができた。TEEAの皆と話しているうちに、世界の事情に関して深く認識でき興味を味わえただけではなく、自分の国に対しても再認識させられた。昨年十一月の留学生センター主催の国際教育交流会宿舎では、事前の打ち合わせや合宿中の討論会、発表などで当時プレゼンチャーを感じたが、今では一緒にいた時間はすべからずかけがえのない大事な思い出になっている。八月の鬼怒川一泊旅行は帰国する寂しさも忘れるほど楽しく、一緒に花火を打ち上げたその夜は、いまでもありありと覚えていて。TEEAの皆さん、この短い一年間本当にありがとうございました。私の国にも遊びに来てください。今度私が案内してあげます。

伊藤真奈美 (文教育学部三年、九月から北京大学へ留学)

私はTEEAで活動して国際化社会、異文化交流が日々自分の中に内化されていく様な気がする。その感覚が新鮮で、楽し、声を大にして自慢したいくらい。留学生との交流で私が感じる一番の魅力って何なのだろう? 知らなかつたことを知る楽しさ、そしてそれがリアルであることが最大の魅力なのかもしれない。こんな時代だから旅行雑誌やインターネットでも、世界を知った気にな

なれるし、海外旅行も気軽なレジャーになりつつある。しかし、それは一方的で、交流とは何か違う。私にとって彼女たちはいわば、身近な各国代表団。まして学生という同じ立場なので、同年代の私たちは掛け値なしに語り合え、解り合える。私は世界の国々を彼女たちから学ぶと言っより、感じる。それはちよとしたお喋りの中でも、勿論難しい討論に於いても、常にリアルに私を揺れ動かした。逆に日本について質問されると、私は小さな戸惑いを感じ、これが外国人が疑問に思うことなのだ。と彼女たちの見ている日本を知るのだ。それに対して私は「日本人なのにうまく答えられない。どう言えば分かり易いだろうか」と思う。日本について何かを教える時、私はちよとした責任感を覚える。私たちの交流は言わば草の根レベルだ。だからと言って手を抜くことはできない。ギブ&テイクとも少し違う。対等な関係なのだ。教えると言っより、知って貰っ、この方が確かかもしれない。私は日本人である自分の意思、主観を敢えて交えて日本を語りたい。梓にはまた、客観的な日本の知識なら本やWEBで事足りてしまっから。この九月から、私は北京で留学生になる。彼女たちが私にとってそうであつたように日本代表になつたりも、異文化交流の輪を広げられたらと思う。

小西 理子 (TEEA代表、文教育学部三年)

この一年間、TEEAで文化背景の違つた人たちの架け橋になれたらと思いがんばつてきた。送別会の時に互いに別れを惜しむ留学生と日本人学生を見て、私も寂しいと感じると同時に、お互い別れを惜しめる人間関係を育てて良かったと少し感じました。これも留学生センターや留学生相談室の方々の温かな気持ちと、TEEAのメンバーの一人一人が、人と深く関わって行きたいと言っ気持ちがあったからだと思う。これからも交流が更に活発になるようにがんばって行きたいと思う。

以上、お茶の水女子大学TEEAのメンバーの感性豊かなメッセージをお届けしました。なお、留学生センターの教育・相談・交流に関する情報は <http://ist-server.t.uocha.ac.jp> を参照して下さい。また第一回国際教育交流シンポジウムの報告書、留学生相談室便り、TEEA新聞の残部がありますので、関心のある方は、留学生センター長室 (文教一館一階、教務補佐03 578 565) へお問い合わせ下さい。